27年2月研修会

「纒向遺跡を訪ねる」

資　料

奈良・人と自然の会

歴史文化クラブ

（２月１１日）

行程表

10：10　ＪＲ巻向駅　集合

10：15　出発　（全行程：約８Ｋを徒歩で巡ります）

10：25　辻地区建物群跡・・・川井代表挨拶、岩本先生解説（約３０分）

11：05　石塚、勝山、矢塚古墳・・・解説（各　約５～１０分）

11：40　東田大塚古墳・・・・解説（約５～１０分）

11:45　出発

12：05　そうめん処三輪茶屋・・・・・昼食（約３０分）

12:35　出発

12：45　箸塚古墳・・・・・岩本先生解説、他（約３０分）

13:15　出発　（エスケープ：バス停　箸中　13:34 天理行き）

13：30　ホケノ山古墳・・・　解説（約１０分）

13：55　茅原大墓古墳・・・解説（約１０分）

14：15　狐塚古墳・・・解説（約１０分）

14：45　桜井市埋蔵文化財センター・・・

中村学芸員解説（約３０分）

15:20　出発

15：35　ＪＲ三輪駅着・・・解散

三輪駅発　奈良行き及び高田行き　15:46

纏　向　遺　跡

Ⅰ　遺蹟の概要

(1)規模・時代　　東西約 2km、南北約 1.5km、2C 末乃至 3C 初頭～4C 初頭

(2)遺構　　昭和 46 年にアパート建設の事前調査によって、6～7C（古墳時代後期～飛鳥時代）にかけての川の跡が見つかり、この川跡が『万葉集』に出てくる巻向川の可能性があるとの見解が示され、また川の中から特殊器台の破片が出土したのが発端となる＊。その後、幅 5m の直線的な水路が 2 本（計 250m 分）検出された。

辻地区、約 100m×約 150m の広さの中に、3C 前半～中頃の 3 棟の大型建物跡を検出、その中心線は東西に一直線となる。建物 B：約 5.2m×約 4.8m、物見櫓か、建物 C：約 8m×約 5.3m、棟持柱、建物 D：約 19.2m×約 12.4m、居館か、

上記は、平成 22 年度までの成果であるが、25 年度には、その東側で、建物 E・建物 F（約 6.7m×約 3.4m）が検出され、上記の建物と共存していた可能性があるという。

なお、東西溝２、南北溝１、柱列２も検出された。

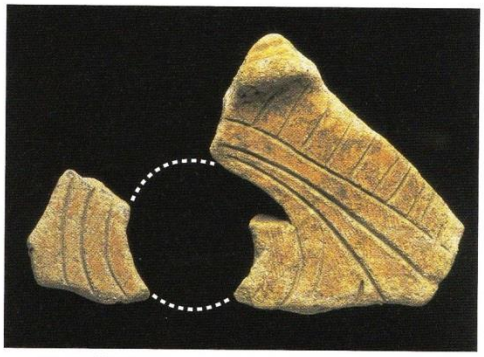


図 4 ● 特殊器台
胎土は茶褐色で表面は赤彩。同一個体ではないが、巴形すかし孔の部分を示す。

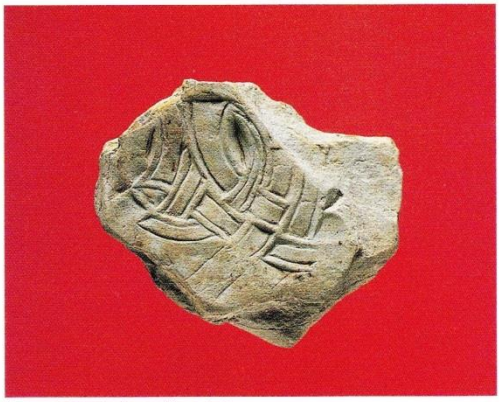
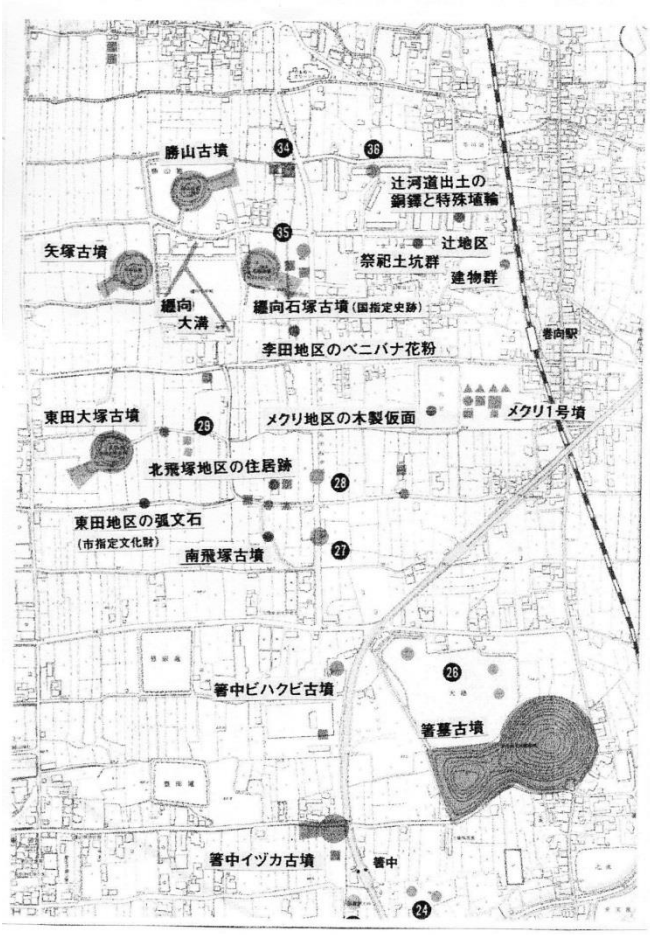
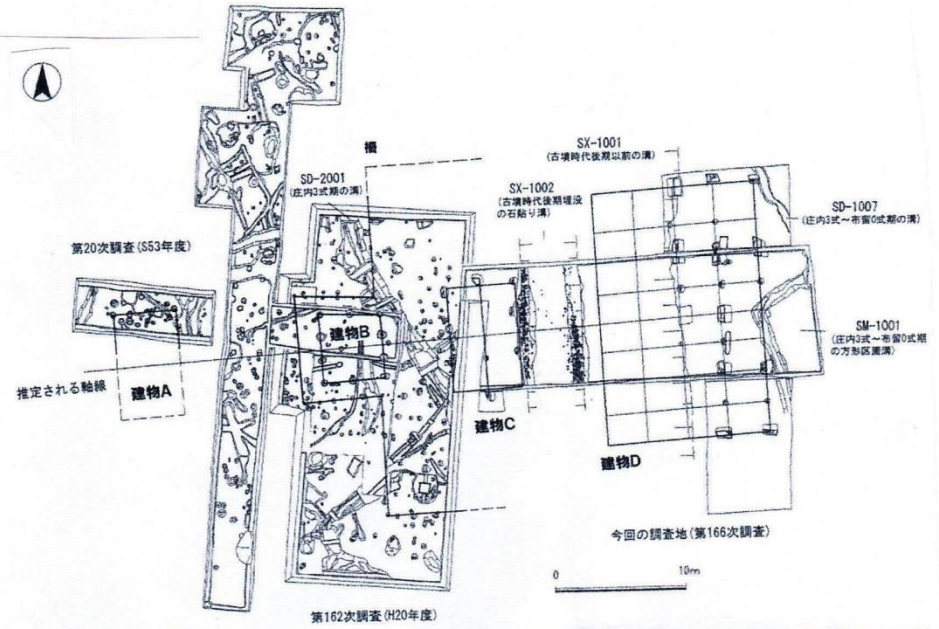


図 6 ● 弧文板（上）と弧文石（下）
弧文板は、巻野内地区の導水施設から出土。
弧文石は、東田地区出土。





纒向遺跡大型建物群遺構配置図（桜井市教育委員会『纒向遺跡第166次調査現地説明会資料』による）

CG復元！ 2009年に発見された大型建物群

纒向遺跡の中心地と思われる大型建物群の復元CG。建物B・C・Dは軸線をそろえて東西に配列されていることから、計画的な設計図を基に建設されたことがわかっている。写真提供／NHKスペシャル"邪馬台国"を掘る(2011年放送) 監修:黒田龍二 ©NHK/タニスタ

建物D
南北4間、東西4間で、南北約19.2m、東西約12.4m。3世紀中頃に廃絶したもので、建物群の中で現段階では最も大きく中心的な存在と考えられる。

建物B
1辺5m角ほどの高床の建物で、床までの高さは2m超。周囲に柵や堀と見られる柱列がめぐる。建物B・C・Dは柱が抜き取られたことがわかっている。

建物C
東西5.2m、南北約8m。壁の外側の中央に柱が出ているのが特徴。これは、棟持柱と呼ばれるもので、伊勢神宮などの神社建築に近いイメージ。

＊『万葉集』には、巻向を詠んだものが 12 首ある。巻向の川については次の 2 首。

巻向の痛足(あなし)の川ゆ往く水の　絶ゆることなくまた反(かへ)り見む　（7-1100）柿本人麻呂歌集

ぬばたまの夜さり来れば　巻向の川音(かわと)高しも嵐かも疾(と)き　（7-1101）同上

(3)遺物　出土する土器の 15～30%が関東・東海・伊勢・北陸・山陰・四国・九州のもの。また畿内の土で作られた東海・山陰の形式の土器もある。人の移住を示すと考えられる。

土木事業の用具である鋤と農作業用具の鍬の出土比率は、95 対 5 の割合。

3C 後半の北部九州の鍛冶技術が持ち込まれている。九州と纏向は良好な関係であった。

Ⅱ　邪馬台国の年代

(1) 三国史（魏書東夷伝倭人条）から

2C 後半から男王とどまること 7,80 年、倭国大乱、卑弥呼、共立されて王となる。

239 年　卑弥呼、魏に遣使。親魏倭王に任ぜられ、銅鏡 100 枚等を賜る。

243 年　倭王、再び魏に遣使。

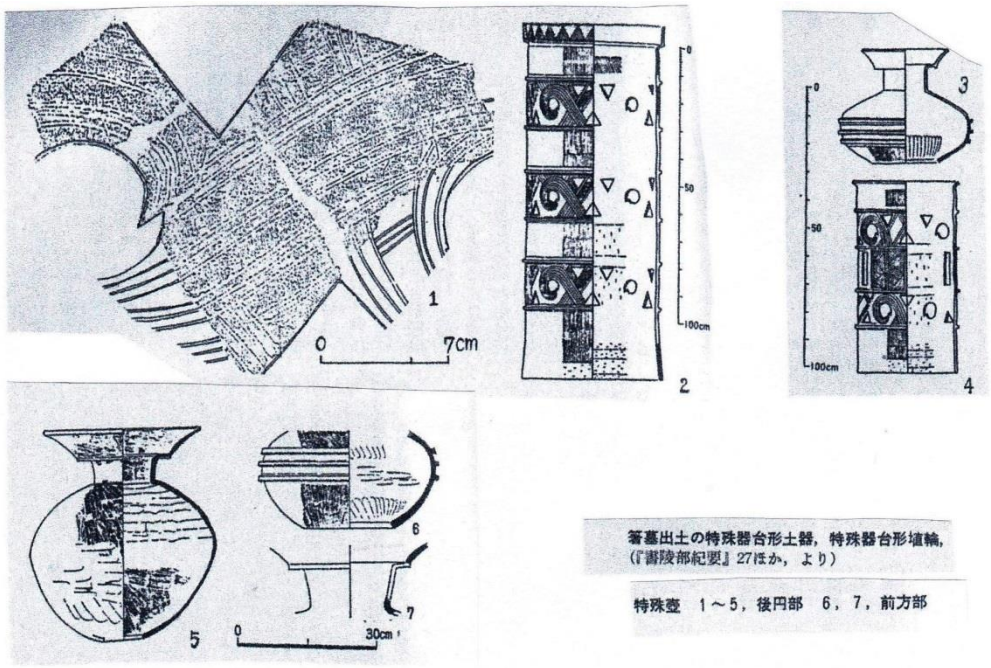
247 年　倭王卑弥呼、帯方郡に遣使。狗奴国との交戦の状況を説く。

248?年　この頃、卑弥呼死す。男王が立つも収まらず、卑弥呼の宗女の台与（壱与）を女王とする。台与、魏に遣使。　（参考）265 年　魏が滅び、西晋が興る。

Ⅲ　箸墓古墳の年代　*宮内庁治定：孝霊天皇皇女倭迹迹日百襲姫命　大市墓

(1)　その造営年代を 3C 中葉頃とする最近の多くの考古学研究者の見解を重視すると、その被葬者の候補として卑弥呼以外の人物を想定するのは、きわめて難しい。（白石太一郎「邪馬台国連合から初期ヤマト政権へ」『箸墓以降』大阪府立近つ飛鳥博物館平成 26 年度秋季特別展図録）

(2)　2009 年、国立歴史民俗博物館は箸墓古墳出土の布留０式土器に付着した炭化物を採取し、加速器質量分析計（AMS）による放射線炭素年代測定を行い、240～260 年という結果を出した。（北井利幸「箸墓古墳は果たして卑弥呼の墓か？」『歴史人別冊　古代史の謎』KKﾍﾞｽﾄｾﾗｰｽﾞ、平成 26 年 8 月）　（参考）崇神天皇 10 年 9 月紀「箸墓は、日は人作り、夜は神作る。故、大坂山の石を運びて造る。すなわち山より墓に至るまでに人民相つぎて手ごしにして運ぶ」



箸墓出土の特殊器台形土器，特殊器台形埴輪，
（『書陵部紀要』27ほか，より）

特殊壺　1～5，後円部　6，7，前方部

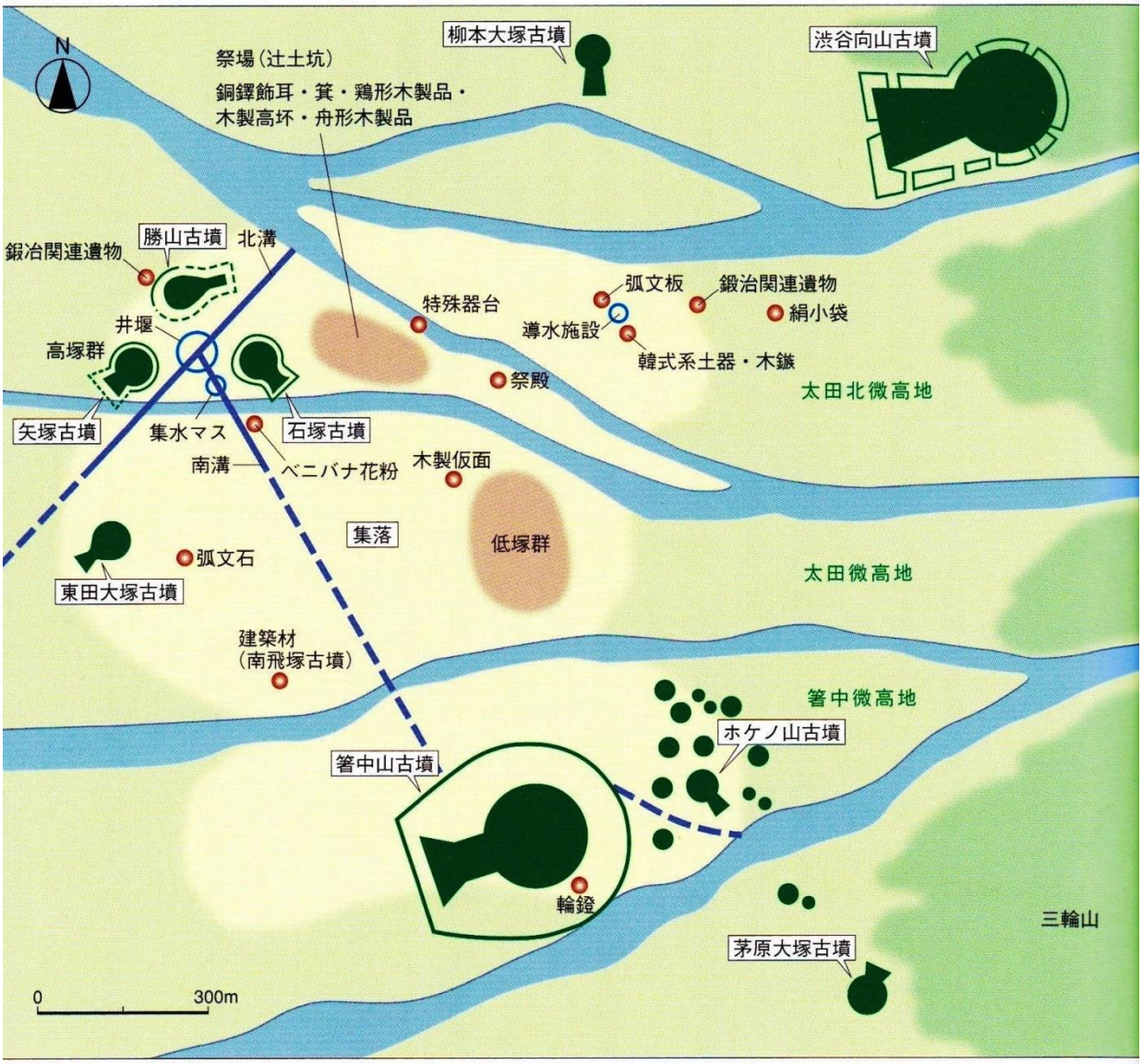


図３●纒向遺跡
三輪山北麓の穴師・車谷から流れる旧河道が纒向地域の水源となり、
いくつかの居住地と墓域を結ぶ。

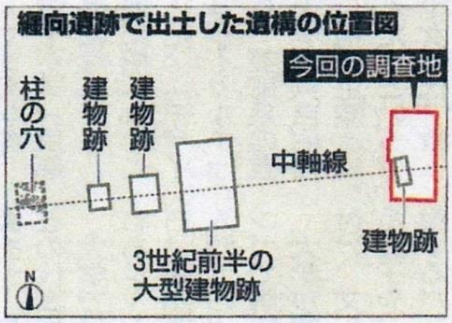
1　13版　2014年（平成26年）2月7日　金曜日

纒向遺跡 新たな建物跡

今回見つかった3世紀前半の建物跡。ポールが柱穴。国内最大規模の大型建物跡はこの30㍍余り西側（写真上の方向）で確認された＝6日午後、奈良県桜井市、本社ヘリから、森井英二郎撮影

女王・卑弥呼が治めた邪馬台国の有力候補地とされる奈良県桜井市の纒向遺跡（国史跡、3世紀初め～4世紀初め）＝🔑＝で、2009年に確認された3世紀前半（弥生時代末～古墳時代初め）の大型建物跡の東側から、建物跡1棟が見つかった。市教委が6日発表した。大型建物跡などの建物群と同じ東西の同一線上に中心軸が並ぶことから同時期の建物とみられ、専門家は「この時代では異例の広さ。邪馬台国の中枢施設との見方が強まる」と指摘している。

▼33面＝新たな溝の跡も



遺跡では09年、3世紀前半としては国内最大規模の大型建物跡（南北19・2㍍、東西12・4㍍）が見つかり、その西側の小中規模の建物跡2棟と東西の同一線上に並んで配置されていたことがわかった。

今回確認された建物跡は、この大型建物跡の36・5㍍東側で見つかった。方形の柱穴が10個（一辺40～60㌢）見つかり、東西3・4㍍、南北6・7㍍の規模だったとみられる。

建物群と一直線　邪馬台国中枢説 強まる

🔑 纒向遺跡

奈良盆地東南部の東西約2㌔、南北約1・5㌔の弥生末期～古墳前期の大規模遺跡。卑弥呼の墓との説がある箸墓（はしはか）古墳（全長約280㍍）など最古級の前方後円墳が点在する。関東から九州まで各地の土器なども出土。自然集落ではなく、人工的に造られた「日本初の都市」と言われる。

石野博信・兵庫県立考古博物館長（考古学）は「東西150㍍の長方形区画の真ん中を貫くように、規格性を持って並ぶ建物群がほぼ確認できた。3世紀ではとんでもない規模の大きさだ」と指摘。「卑弥呼と後継者の台与の2人の女王時代の居館域だった可能性が強まったのではないか」と話す。

現地説明会は9日午前10時～午後3時、JR巻向駅近くの現場周辺で。問い合わせは市纒向学研究センター（0744・45・0590）へ。

（塚本和人）

33 社会 13版 2014年(平成26年)2月7日 金曜日 産

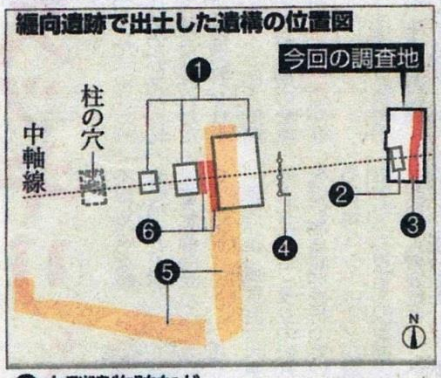
首長の館、繰り返し造営？

纒向遺跡 新たな溝の跡も確認

大型建物跡の東側で見つかった建物跡。ポールは柱跡。右側は南北方向の溝の跡＝5日午後、奈良県桜井市、水野義則撮影

邪馬台国の有力候補地、奈良県桜井市の纒向遺跡では今回、3世紀前半の建物跡とともに、少し後の時代となる3世紀後半～4世紀前半（古墳時代前期）の溝の跡も確認された。これまでの調査で、一帯では6世紀ごろまで連綿と続く遺構が確認されており、研究者は「邪馬台国から初期ヤマト王権まで、重要な建物が継続して造営され続けてきた可能性がある」とみる。▼1面参照

溝は南北方向に幅2・5㍍、長さ20㍍以上で、3世紀前半では国内最大規模の大型建物跡の東36㍍余りで確認された。一帯ではこれまでの調査で、今回の溝と同時期とみられる建物跡▽4世紀後半の区画溝▽5世紀末～6世紀初めの石張り溝――も見つかっている。



❶大型建物跡など3棟の建物群……3世紀前半
❷今回の建物跡……3世紀前半
❸南北溝……3世紀後半～4世紀前半
❹建物跡……3世紀後半～4世紀前半
❺区画溝……4世紀後半
❻石張り溝……5世紀末～6世紀初め

市教委は、3～6世紀にわたって首長の居館がこの地域に繰り返し造営されてきた可能性を指摘する。

古事記や日本書紀は、初期ヤマト王権の崇神、垂仁、景行の3代の大王（天皇）が纒向周辺に宮を置いたと記している。白石太一郎・大阪府立近つ飛鳥博物館長（考古学）は「このエリアが非常に重要な中枢部の一つだったとみられる。邪馬台国から初期ヤマト王権まで、纒向周辺で続いていた可能性が強まったのではないか」とみる。和田萃・京都教育大名誉教授（古代史）は「崇神天皇以降の拠点は広い範囲に複数点在するとみられ、その一つが今回の調査地周辺だったのではないか」と話す。

（塚本和人）

（出典：　橿考研 友史会編纂「遺跡地図」及び桜井市埋蔵文化財センター「纒向へ行こう」）
（著作権に触れない範囲でご使用下さい）

（**遺跡の番号**はガイドマップの番号です）

◎ 纒向遺跡と纒向古墳群

奈良県桜井市に位置する纒向遺跡内には、箸墓古墳やホケノ山古墳に代表される出現期の古墳や、築造時期の分かっていない円墳などが集中していて、それらを総称して纒向古墳群と呼ばれている。纒向古墳群は分布から東田支群と箸中支群に分けることができる。

箸中支群は、大字箸中から巻野内地区にかけて分布していて、ホケノ山古墳・箸墓古墳といった出現期の古墳や、平塚古墳・慶運寺裏古墳などの古墳時代後期に属する古墳があり、この支群には古墳時代前期のものと後期のものが混在している。そのほか、約器基の時期不詳の古墳が点在している。

東田支群は、纒向遺跡の西端に位置する太田微高地上に形成されていて、纒向石塚古墳、纒向勝山古墳、纒向矢塚古墳、東田大塚古墳の 4 古墳がそれに属している。

纒向遺跡は、桜井市北西部に所在する三輪山の麓から西へなだらかに広がる標高約 60～90m の扇状地上に位置している。**現在確認されている遺跡の範囲は東西約 2ｋｍ、南北約 1．5ｋｍ**で、太田・辻地区を中心とした場所からは、**掘立柱建物群や纒向大溝**と呼ばれる矢板を列ねて護岸工事を施した 2 本の溝、土器や木製品などが納められた祭祀土坑などが見つかっている。また、尾崎花地区仏）からは、Ｖ字形の溝に囲まれた、建物の敷地と思われる大規模な区画が見つかっていて、その東側に位置する家ツラ地区では、水の祭祀の場と考えられる導水施設が検出されている。

この遺跡は、広大な面積を有していて、周囲には一連と考えられる出現期のものを含めた多くの古墳が集中して築かれている。また、出土する土器は、九州から関東に至る広範囲なもので、交流の中心地であったことが窺える。さらに、区画された建物群や、整備された溝等の存在から、纒向遺跡は当時の中心的な場所であったことが想像できる。

2009 年には、太田・辻地区で、東西に軸をそろえた、柱列に囲まれた建物遺構が見つかり、3 世紀前半から中頃の纒向遺跡の居館跡と推定されている。

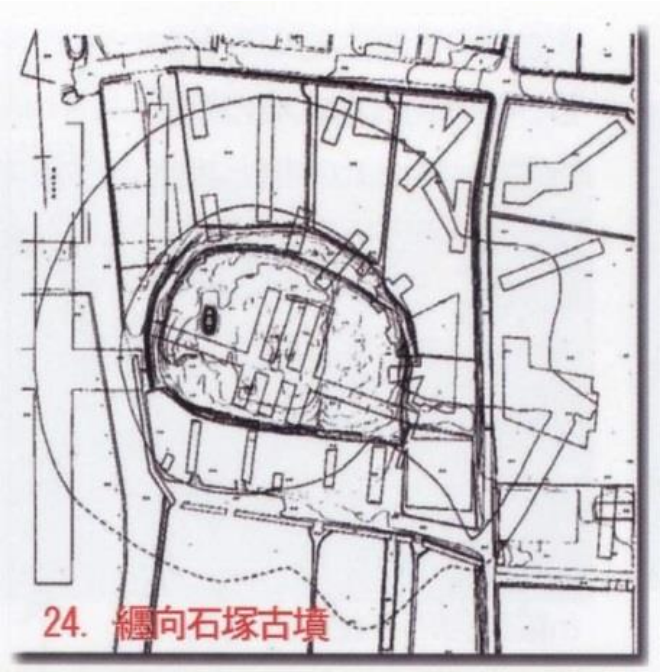
16 辻地区の建物群

辻地区の南において検出された 4 棟の掘立柱建物と柵からなる建物群で、纒向遺跡の居館域にあたると考えられている。建物群は庄内式期の前半段階頃（**3 世紀前半**）に建てられたとみられるが、庄内 3 式期（**3 世紀中頃**）には柱材の抜き取りが行われ・移転・廃絶したと考えられている。このうち、中心的な位置を占める大型の掘立柱建物は 4 間（約 19．2m）×4 間（約 12．4m）
の規模に復元できるもので、当時としては国内最大の規模を誇る。近年実施された第

168 次調査では建物群の廃絶時に掘削されたとみられる 4・3mx2．2m の大型土坑が検出され、破壊された多くの土器や木製品のほか、多量の動植物の遺存体などが出土しており・ヤマト王権中枢部における祭祀の様相を鮮明にするものとして注目されている。

12　纒向石塚古墳

全長約 96m、後円部径 64m、前方部長 32m の典型的な「**纒向型前方後円墳**」。周濠の幅は、後円部の周囲では 18～24m あるが、前方部の前面では約 5m と狭くなっている。また、周濠へと水を引き込む導水溝の存在も確認されている。第二次大戦中に高射砲陣地の設営に伴い、墳丘の上部が埋葬施設とともに大きく削平されてしまっていて、現状では、高さ約 4m の後円部の墳丘だけが残っている。墳丘は基底部からすべて盛り土で築かれていて、その盛り土内に含まれる土器片や同濠内から出土した土器などから、古墳の築造時期は庄内 1 式期～3 式斯（3 世紀初め～中頃）と想定されている。そのほかの出土遺物として、周濠内からは木製の鍬、鋤や建築部材、鶏形木製品や弧文円板などの特殊な木製品も出土している。



当古墳出土の弧文円板複製・復元品を県立橿考研博物館にて展示中

11　纒向勝山古墳

３世紀中～後半の**前方部が長い前方後円墳**、全長約 115m 後円部径約 70m、前方部長約 45m で前方部がやや細長く、柄鏡のような形をしていて、東田支群のなかでは最も規模が大きい古墳である。墳丘周辺の調査により、幅約 20m、深さ約 1m の比較的浅い周濠が確認され、そこからは土器をはじめ、団扇や舟形などの祭祀関係の木製品も出土している。

10　纒向矢塚古墳

全長約 96m、後円部径約 64m の**纒向型前方後円墳**、前方部は現在ほとんど見えなくなっているが、調査により墳丘の南西部に長さ 32m の前方部があったことが確認されている。

また、幅 17～23m、深さ約 60cm の周濠も確認されていて、庄内 3 式期（3 世紀中頃）の土器群がまとまって出土している。

6 東田大塚古墳

後円部径約 68m、推定前方部長約 50m で、全長約 120m の**前方部が長い前方後円墳**。墳丘周辺の調査により、幅約 21m、深さ約 1.3m の周濠が確認され、布留 0 式新相期（3 世紀後半）の土器が出土している。また、墳丘盛土下における調査で見つかった井戸の中から、布留 0 式古相期（3 世紀後半）の土器がまとまって出土していて、古墳築造時期が古墳時代前期と判明した。

1．箸墓古墳

倭迩迩日百襲姫命太市墓として宮内庁により陵墓指定されている、**全長約 280m**、後円部径 155m、前方部長 125m、前方部前面の幅 147m で、後円部 5 段、前方部 4 段の段築で構成される**前方後円墳**である。前方部北裾部の調査により、墳丘の基垣とそれに伴う葺石や、幅約 10m の周濠が確認された。また、後門部東南裾部の調査では、葺石を施した渡り堤と外堤が検出されている。これらの調査で出土した土器は、いずれも布留 0 式期に相当するものであるので、**築造時期は 3 世紀後半**と考えられる。そのほか後円部墳頂付近からは宮山型特殊器台・特殊壷・特殊器台形埴輪、前方部墳頂付近では二重口縁壷などが採集されている。

（中国の史書によると、卑弥呼は２４８年頃に没す：卑弥呼の墓ではなさそう）

前方後円墳出現前の古墳
（纒向型）纒向石塚古墳→纒向矢塚古墳　（ｃｆ．ホケノ山古墳、巻野内石塚古墳）
（前方部の長い古墳）纒向勝山古墳→東田大塚古墳
（前方後円墳）箸墓古墳：巨大古墳の出現

23 ホケノ山古墳

全長約 80m、後円部径約 55m、前方部長 25m の「**纒向型前方後円墳**」で、纒向遺跡内の同古墳の中では唯一葺石を持つ古墳である。墳丘の周りには幅 10.5～17m の不整形の周濠が確認されているが、全周するかは分かっていない。**主体部は、「石囲い木槨」**と呼ばれる木材で作られた槨の周囲に、川原石を積み上げて囲いを造るという二重構造の埋葬施設で、中には舟形木棺が置かれていた。副葬品には、画文帯神獣鏡・内行花文鏡などの銅鏡、銅鏃、鉄鉱、刀身、工具類などがあり、石囲いの上には土師器が置かれていた。また、その他の埋葬施設も見つかっていて、前方部東斜面では、古墳の完成後に葺石をはずして掘り込み、組合式木棺を置いていて、大型複合口縁壷と広口壷が供献されていた。後円部からは古墳時代後期の両袖式の横穴式石室を検出し、

中には組合式家形石棺が置かれていた。石棺内は盗掘を受けていて副葬品は見つからなかったが、石室内からは土師器・須恵器などが見つかっている。　埋葬施設の構造や遺物から、築造時期は 3 世紀中頃と考えられる。

83 茅原大墓古墳

全長約 85m、後円部径約 70m、前方部長約 15m の**帆立貝式の前方後円墳**である。1982 年に国史跡に指定されている。後円部西側でおこなわれた発掘調査で、周濠や葺石の存在が確認され、円筒埴輪や朝顔形埴輪、家形埴輪などが出土している。これら出土遺物から、築造時期は古墳時代中期（5 世紀前半）と考えられる。

87　狐塚古墳

墳丘は大きく削平されていて、石室石材が露出している。周辺の地形から 1 辺 40m 以上の**方墳**と考えられる。石室は南に開口する両袖式の横穴式石室で、全長 17．3m、玄室長約 6m、幅約 2．6m、高さ約 3．2m、羨道長約 11．3m、幅約 2m と奈良県内でも屈指の大きさである。玄室内には、石室主軸に直交して 3 つの石棺が置かれていた。
一番奥に組合式の家形石棺があり、その手前にも組合式の石棺が並んでいる。これらの石棺はいずれも盗掘されていたため、副葬品は須恵器と鉄刀が残っていた程度である。

築造時期は出土した須恵器より 6 世紀末と考えられ、7 世紀前半にかけて迫葬されたとみられる。

◎ 桜井市立埋蔵文化財センター

桜井市の地域は古くから磯城・磐余とも呼ばれ、古代国家「大和王権」の母体となった所であり､我が国の国家の成り立ちを考える上で重要な場所であったと考えられている。また市内には多くの社寺をはじめ、先人達の足跡を残す遺跡や第１０代崇神天皇以来、古代の宮跡とされる場所が随所に点在している。

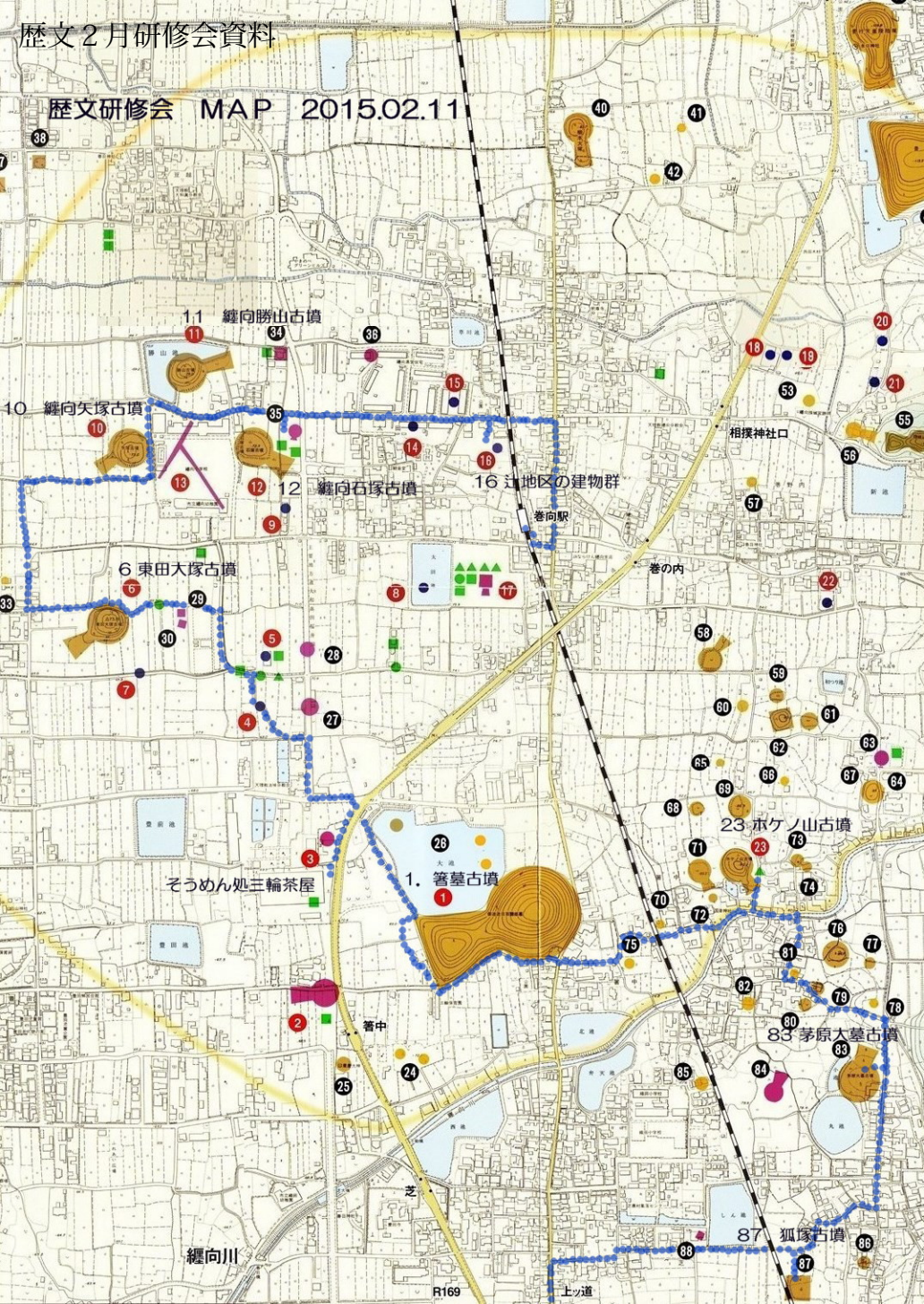
桜井市では昭和６３年１０月に「桜井市埋蔵文化財センター」を建設し、開発に伴う発掘調査をはじめ、出土する遺物の集中的な管理を行っている。

施設内に併設された展示室では､昭和４３年から桜井市が行ってきた発掘調査資料を中心に桜井の通史をテーマとした常設展をはじめ、特別展、企画展、速報展を行っている。

（企画展：　「魅惑の玉」　平成２６年１２月３日～平成２７年４月１９日）

以上

歴文２月研修会資料


歴文研修会　MAP　2015.02.11
11　纒向勝山古墳
10　纒向矢塚古墳
12　纒向石塚古墳
16 辻地区の建物群
巻向駅
相撲神社口
巻の内
6 東田大塚古墳
そうめん処三輪茶屋
1. 箸墓古墳
箸中
23 ホケノ山古墳
83 茅原大墓古墳
87　狐塚古墳
纒向川
R169
上ッ道